

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	3 学年
科目名	歴史総合	所属教科	地理歴史	単位数	2 単位
指導概要 と 習得目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。 (1) 近現代の歴史を理解し、情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 歴史の変化に関わる事象の意味や特色などを、考察したり、説明したり、議論する力を養う。 (3) 諸事象について、主体的に追究、解決しようとする態度を養う。				
指 導 計 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容		時数 (予定)
	1	近代化と私たち	産業革命・アヘン戦争と日本・日本の開国・開国後の日本社会・明治維新・富国強兵と文明開化・明治初期の外交・大日本帝国憲法・日本の産業革命と日清戦争・帝国主義・日露戦争と韓国併合		28 時間
	2	国際秩序の変化や大衆化と私たち	第一次世界大戦・ロシア革命とその影響・社会運動の広がり・国際協調・アジアの民族運動・世界恐慌・独裁勢力の台頭・日本のアジア進出・第二次世界大戦・戦後国際秩序・冷戦の始まり・日本の戦後改革と日本国憲法・日本の独立		28 時間
	3	グローバル化と私たち	第三世界の登場・冷戦の展開・55 年体制と安保闘争・高度経済成長・ベトナム戦争とアメリカ・経済構造の変化・日本の経済大国化・冷戦の終結・地域統合・現代世界の諸課題		14 時間
授業展開	座学を中心とする。生徒一人一人が、歴史的諸事情を理解しながら、主題や課題を設定して追求・考察できるよう工夫しながら指導する。				
使用教材等	教科書：「わたしたちの歴史 日本から世界へ」（山川出版社） 副教材：「わたしたちの歴史 日本から世界へノート」（山川出版社）				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論する力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
主な 評価 方法	定期テストや小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	定期テストや小テストの解答の内容および提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、生徒が自己評価を行った結果を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程		対象学科	全学科	指導学年	3 学年
科目名	数学Ⅱ		所属教科	数学	単位数	2 単位
指導概要 と 習得目標	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式を学ぶなかで数学的な思考・計算力を身につけ、数学に対する興味・関心を高める。					
指 						

2025 年度 教科授業計画と評価について

	3	図形と方程式（続き） ・円の方程式 ・軌跡と領域	円の方程式を求める 円と直線の関係について共有点や位置関係や接線を学ぶ 2つの円の位置関係（外接・内接・2点で交わる・内部・外部など）について調べる 軌跡と方程式（主に座標平面上の点の軌跡について学ぶ） 不等式の表す領域を図示できるようにする	14
授業展開と評価	基本的には講義形式で行うが、併せてプリント学習で演習授業を取り入れる。 各科とも共通の教材、試験問題を使用、成績も一律並行して評価する。 定期テスト、授業態度、宿題等を考慮して、評価する。 必要に応じて、追試、補習によって学力の補充を行う。			
使用教材等	教科書：数研出版「最新数学Ⅱ」、自主教材プリント、各種教具を使用する。			

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	式と証明，等式・不等式の証明，複素数と方程式，図形と方程式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることができる。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を有している 座標平面上の図形について構成要素の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現し，数学的に考察することができる。	学習した内容を積極的に利用しようとしている。 粘り強く問題に取り組む姿勢を有するとともに，課題等へ主体的に取り組んでいる。
主な評価方法	・定期考査 ・課題（基礎的な知識・技能）	・定期考査 ・課題（表現力・思考力・判断力） ・口頭試問	・授業での取り組み ・課題評価（取り組み）

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	3 学年
科目名	化学基礎	所属教科	理 科	単位数	2 単位
指導概要 と 習得目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
指 導 計 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容	時数(予定)	
	1	序章 物質と化学 第1章 物質の構成 1節 物質の探究 2節 物質の構成粒子 第2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 2節 共有結合と分子間力 3節 金属結合 4節 化学結合と物質	・日常生活における物質の製造や利用の例を通して、化学に対する興味・関心を高め、化学の果たす役割を理解する。 ・混合物と純物質の違いや物質を構成する元素について理解し、元素記号を覚える。 ・粒子の熱運動と温度、物質の状態変化との関係を理解する。 ・原子の構造を学び、同位体の定義・性質を理解する。 ・イオンの生成について学び、イオン結合について理解する。 ・元素の周期表について理解する。 ・分子中の原子の結合および分子の構造を表す方法を理解する。 ・金属結合と性質を理解する。また様々な金属について学ぶ。 ・結合の違いや構成粒子による物質の性質の違いを理解する。	28	
	2	第3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式 ・原子量と分子量・式量 ・物質量 ・溶液の濃度 ・化学反応式 2節 酸と塩基 ・酸と塩基、分類 ・水素イオン濃度とpH ・中和反応と塩	・原子や分子の質量を相対質量で表すことを理解する。 ・原子量や分子量・式量と物質量の関係を学び、物質を[mol]を単位とする量で表すことを理解する。 ・物質量、質量、気体の体積、粒子数の関係性を理解する。 ・溶液について学び、質量パーセント濃度・モル濃度を理解する。 ・化学反応式とイオン反応式の記述方法を学び、係数比が物質量比を表すことを理解する。 ・反応式の量的関係を理解し、計算をできるようにする。 ・酸・塩基の定義を学び、酸性・塩基性を理解する。また、酸・塩基の価数と強弱について学ぶ。 ・水素イオン濃度とpHとの関係を学び、pHの値により液性を示せることを理解する。 ・中和反応について学び、中和の量的関係についても理解する。 ・塩の分類と、塩の水溶液の液性を知る。	28	
	3	3節 酸化還元反応 ・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤 ・金属の酸化還元 ・酸化還元反応の応用	・酸素原子、水素原子、電子の授受による酸化還元反応の定義を理解する。 ・酸化数の求め方、酸化数の変化と酸化・還元との関係を理解する。また、酸化剤・還元剤の定義、具体的な反応例を理解する。 ・金属のイオン化傾向について学習し、個々の金属のイオン化傾向と反応性の関係を理解する。 ・酸化還元反応の応用として、日常生活における例として、電池や金属の精錬を理解する。	14	
授業展開	授業はHR教室を基本とし、必要に応じて化学教室を利用する。評価は定期考査の得点を中心とし、出欠状況・授業態度・提出物・実験時の取り組み状況などについて総合的に判断する。				
使用教材等	教科書：「化学基礎」（実教出版）				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点	物質の構成や化学反応などを基本として、化学的な現象や物質の利用を理解しようとする姿勢を身に付けている。	化学的な現象や物質の利用に関する疑問に対し、物質の構成や化学反応などと関連させ、事象を科学的に捉えようとする力を身に付けている。	化学的な現象や物質の利用に関し、自ら文献を調べたり、実験等に積極的に参加したりすることで、理解を深めようとする姿勢を身に付けている。
主 な 評 価 方 法	定期テストや小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	定期テストや小テストの解答の内容および提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業や実験等に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、生徒が自己評価を行った結果を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

2025 年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	機械科・電気科・情報技術科	指導学年	3 学年
科目名	体育	所属教科	保健体育科	単位数	3 単位
指導概要 と 習得目標	(1) スポーツの特性に応じた体力や技能を身に付け、ルールの理解と、健康や安全に留意しながら運動を親しむ（知識・技能） (2) 運動について、自身や仲間（グループ）の課題を見つけ、解決に向けて思考判断しながら他者との対話ができる力を身に付ける（思考力・判断力・表現力） (3) 互いに協力して授業を進める中で、協調性を育てるとともに、運動の楽しさや喜びを感じることができる（学びに向かう力）				
指導 計画 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容		時数（予定）
	1	(1) 体づくり運動	ア スポーツテスト		42 時間
		(2) 球技	ア ソフトボール イ 卓球		
		(3) 体育理論	ア 豊かなスポーツライフの設計 ①		
	2	(4) 水泳	ア クロール イ 平泳ぎ ウ 背泳ぎ エ バタフライ		42 時間
(5) 陸上		ア 持久走			
(6) 球技		ア バレーボール イ サッカー ウ バasketボール			
3	(7) 体育理論	ア 豊かなスポーツライフの設計 ②		21 時間	
	(8) 球技	ア バドミントン			
		(9) 体育理論	ア 豊かなスポーツライフの設計 ③		
授業展開	基本的な技術の習得を中心に授業を展開。また個々の能力に応じた目標を設定する。				
使用教材 等	現代高等保健体育（大修館書店）				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点	・競技のルールを理解し、安全なゲームの運営に協力する ・技能を習得し、実践する	・他者と協力してチームプレーを行う。また、そのための良好なコミュニケーションをとる ・自身の目標を適切に設定する	・実技に取り組むだけでなく、競技の運営や、準備・片付けも積極的に行うことができる ・体を動かすことや課題を解決することに喜びや楽しみを見いだすことができる
主な 評価 方法	・ルールや知識の理解（ゲーム運営） ・実技テスト	仲間とのコミュニケーションやグループワーク、チームワークなどを通して思考力や表現力を発揮できているか評価を行う。	準備、片づけやゲームの運営（審判）を仲間と協力して行うなど、授業へ向かう姿勢を総合的に評価する。